

HELLO PSJ

ドイツ・ミュンヘンからアメリカ・ボストンへ ヨーロッパ留学のすすめ

Boston University School of Medicine 安田 圭

アメリカにいるとよく“Kei, Which country do you prefer, Japan, Germany or the US?”と聞かれます。私は迷わず“Germany! Germany is the best! I want to go back to Germany!”と答えます。

私は、京都大学で学位を取得後、2003年3月から2年間、ドイツ・ミュンヘン工科大学に留学し、その後アメリカ・ボストン大学医学部に留学し現在に至っています。京大医学図書館の最上階がドイツ語の雑誌で埋まっているとおり、日本は昔に医学をドイツから学びました。彼らは科学のみならず人生を楽しんでいます。あのヨーロッパのゆったりとした雰囲気は何にも代え難い大きな魅力です。例えば休暇は30歳以下で27日もあります。年齢が増加するにつれ、休暇も増加します。3週間まとめて休んでインドネシアに行ってきた、私はネパールに行ってくるね、なんて話もあります。私のボスも数週間いないと思ったら「シベリア行ってきた」なんて言います。しかもクリスマスから1月最初の日曜日まで、ボスの好意によりお休みです。怠けラボではなく、一流ラボの話です。

私もその有り余る休暇を利用して旅行に行きました。ヨーロッパは交通の便が非常によいです。ザルツブルクまで電車で2時間、ウィーンまで4時間、チューリッヒまで4時間、夜行列車に乗って次の日はローマ、別の夜行列車に乗ればプラハに行けます。アムステルダム、ロンドン、ストックホルムは飛行機を使えば1時間で行けます。ストックホルムから夜行列車に乗って北上すれば、北極圏でオーロラを見られます。アメリカのサイ

ズからすれば、ヨーロッパ国ドイツ州という気分になります。そうやって行った場所は10カ国、28都市にもなります。冬には車で3時間のオーストリア・アルプスにスキーに行きます。

ドイツのイメージはビール・ソーセージ・高級車・クラシック音楽だと思います。ミュンヘンはそれを全て備えています。BMWはさておき、他のものは簡単に手に入ります。例えばミュンヘンフィルハーモニー・バイエルン放送交響楽団・バイエルン国立歌劇場などの、クラシックファンなら垂涎ものの最高級の演奏・オペラが千円から楽しめます。仕事帰りに、実験の待ち時間中に、あるいは週末にふらっと行ったコンサート、オペラは数知れません。そして年輩の方なら「ミュンヘン・サッポロ・ミルウォーキー」という言葉を聞いたことがあるでしょう。ミュンヘンでは9月下旬になると世界的に有名なビールの祭りオクトーバーフェストが始まります。ミュンヘンの各ビール会社がそれぞれ建てた1000人収容できると言われるテントの中で、片手に1Lのピアマグを、もう一方の手にタバコを持ち、椅子の上に立ち歌い踊ります。友人の研究室では、金曜日朝のミーティングで白ソーセージとプレッツェルという名のパンと一緒にビールを楽しむそうです。私の研究室でも「今日ビアガーデンが開いたから」という理由でランチに行きました。また誰かの誕生日のたびに、論文が受理されるたびにスパークリングワインが登場します。

日本人がヨーロッパ留学を選択しない理由は語学の問題だと思います。しかし研究室の人はほと



オクトーバーフェストで1Lのビールを同僚と楽しむ著者～ドイツ人は2杯、3杯目を注文する～

んど英語ができます。テクニカルアシスタントは時々英語が出来ないときもありますが、片言のドイツ語で話しか、誰かに言って手伝ってもらいます。もちろんドイツ語は日常生活で必要です。そこは大学が無料でクラスを提供してくれたので、ドイツ語も学ぶことができます。実際私はドイツで英語を習ったようなものです。アメリカ人と激論するだけの英語力はまだないですが、それはたとえ2年間アメリカにいたとしても無理でしょう。どちらの国にせよ、口を挟むときちゃんと聞いてくれます。

私がアメリカ留学をすすめない理由の一つはボスドクの給料の低さです。もう一つは治安の問題です。ボストンは治安のいいほうだと聞きますが、この国では自分の身を守らなければいけません。ボストンでは先輩が丁寧に「ケイの住んでいる近くで銃撃があったらしいから、気をつけーやー」というメールを送ってくれます。一方ミュンヘンでは夜2時ごろまで友達と飲んでいて、夜中にバ

スや路面電車に乗って、あるいは一人自転車で帰っても何も起きませんでした。酔っ払いはいっぱいでしたが、単に酔っ払って友人と仲良く楽しんでいるだけです。

ドイツとアメリカの研究環境は変わりません。もし海外でラボを持つなんていう野望があるならば、ドイツでラボを持つにはそれこそ言語の問題があるからアメリカのほうがいいでしょう。しかし「2年間ぐらい海外行って違う世界を見てこようか」と思っているならば、私はドイツ留学を勧めます。なぜそこまで人生を楽しみつつ業績を上げることができるのか、逆になぜ日本人はそんなに働いているのかという疑問がわいてきますし、まだ解けません。しかしドイツ人のように人生を楽しみ、ドイツ流研究方法を学び（3つの国で一番手抜き実験だが、非常にコントロールにうるさい）、なおかつ日本人として勤勉に働けば、十分留学する意味があるかと思います。